

琉球大学学術リポジトリ

琉球・中国交流史研究

メタデータ	<p>言語:</p> <p>出版者: 上里賢一</p> <p>公開日: 2010-01-22</p> <p>キーワード (Ja): 琉球と中国, 福建省, 交流史, 冊封と進貢, 久米村, 民間宗教</p> <p>キーワード (En): Ryukyu and China, Fujian Province, History of Exchange, Inverstiture and Tribute, Kume Village</p> <p>作成者: 上里, 賢一, 金城, 正篤, 池宮, 正治, 西里, 喜行, 高良, 倉吉, 赤嶺, 守, 長部, 悦弘, 豊見山, 和行, 星名, 宏修, 石崎, 博志, 王, 耀華, 徐, 恭生, 謝, 必震, 方, 宝川, Uezato, Kenichi, Kinjo, Seitoku, Ikemiya, Masaharu, Nishizato, Kikou, Takara, Kurayoshi, Akamine, Mamoru, Osabe, Yoshihiro, Tomiyama, Kazuyuki, Hoshina, Hironobu, Ishizaki, Hiroshi</p> <p>メールアドレス:</p> <p>所属:</p>
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/15029

琉球御座楽《闹元宵》をめぐって

王耀華

琉球御座楽《闹元宵》は1806年（文化3年、嘉慶11年）に、琉球使節団が薩摩藩で演奏した曲目の一つである。その時に演奏された曲目は次の通りである。「第一奏楽 万年春 第二奏楽 賀聖名 第三奏楽 樂清明 第四唱曲 歡樂歌 想郷歌 春佳景 第一奏楽 鳳凰吟 第二奏楽 慶皇都 第三唱曲 闹元宵 第四唱曲 新嘯 第五唱曲 琉歌^{〔*1〕}」

《闹元宵》の歌詞は《甲子夜話続編・卷九十》^{〔*2〕}にも《唐歌唐舞集》^{〔*3〕}にもそれぞれ見られる。《甲子夜話続編・卷九十》における《闹元宵》の歌詞は次の通りである。

好的是新年，
好的是新年，
新年阳和着了物妍，
赏元宵，
鳌山灯万盏。
处处是管弦，
处处是管弦，
天皇移下照着坤乾，
撞罢钟，
就把更来定。

一更鼓儿天，
一更鼓儿天，
三五良宵月华婵娟，
闹元宵，
就在门前儿站。
笙箫度无边，
笙箫度无边，
游子佳人看罗新鲜，
百枝神灯，
千炬红烛联。

〔*1〕 松浦静山、中村幸彦、中野三敏による校正される《甲子夜話続篇・卷九十》第31～33ページ。（東洋文庫400. 平凡社. 1981年. 東京）

〔*2〕 注1に同じ、第34ページ。

〔*3〕 《鎌倉芳太郎ノート54・唐歌唐舞集》（沖縄県立芸術大学付属図書館蔵）

二更鼓儿深，
二更鼓儿深，
士女游行夜不禁，
到处
风箫羯鼓尽罗绮。
金吾好驰禁，
金吾好驰禁，
都城锦绣元夜值千金，
花市周游，
忘却回家心。

三更鼓儿发，
三更鼓儿发，
人醉笙歌风度罗纱，
九陌莲灯焕，
月下芙蓉花。
匝路转香车，
匝路转香车，
繁华此夕自古虽佳，
而今春富贵，
尤其是称了佳。

（意訳：新年は良い時だ。新年は大地をあまねく照らしている。天地万物が美しさを比べ争う。元宵節（旧暦 1 月 15 日）に鰲山では、たくさんの飾り灯籠がかけられたので、見に行った。至る所で、管弦楽の音が聞こえてきた。天星が移ってきて、大地を照らしている。鐘をついたら、更の時刻を決めた。一更（更：夜の時間を計る単位、初更から 5 更まであり、日没から日の出までを 5 等分した時間。1 更は約 2 時間）の時、鼓の音が始まった。美しい夜、美しい月、何人かの美女が門の前に立っていて、さまざまな飾り灯籠を観賞している。笙や簫の音が遠くまで響き渡った。旅人や佳人は珍しく耳を傾けている。百本の神燈が千本の赤蠟燭と繋がっている。二更の時、遠くから夜更けを告げる鼓が響いてくる。男女たちは列を作って遅くまでパレードした。至るところで、笙や羯鼓の音が聞こえてくる。都の夜は本当に千金に値すると言えるだろう。花市場を回っていると、家へ帰るのも忘れてしまった。三更の時、人々はすばらしい笙の音にうっとりし、蓮の花のように飾ってある燈がきらめいている。月の下で、芙蓉の花が美しく見える。あたりには飾り車が回っている。この上元の夜は昔から賑やかで美しいが、今晚の夜景は最もきれいだった。）

総体的に見ると、この本に収録された歌詞はいろいろ比較研究されていて、ほとんど間違っていないということが分かった。但し、一段目の歌詞の後半部

の“天皇移下”は実は“天星移下”の間違いである。この歌詞は内容の面においては、元宵節になると、さまざまな飾り提灯がキラキラ光っていて、笙や簫の音が高くなったり低くなったりしている楽しい雰囲気を表している。その各段の歌詞はほとんど同じ二つの部分からなっている。一つの句式字数は五、五、八（四、四）、八（三、五）とする。

《唐歌唐舞集》の「嘉慶十一年丙寅（1806年）江戸立読谷山王子」と「咸豊六年丙辰（1856年）江戸立伊江王子」という二つの条目にはそれぞれ《闹元宵》の歌詞が載っている。前に引用した歌詞と比べてみたら、数か所の手誤りがある以外に、ほとんど同じであることが分かった。紙数の都合により、ここでは略する。

次は中国各地の民間歌謡における、これに関する曲目を分析してみたい。

浙江省泰順県には、《八宝燈》という民間歌舞がある。話によると、二百年あまり前、当地のある秀才試験に落ちた人によって作られたそうだ。もともとは20個以上の段落があったが、今はたった11の段落しか残っていない。つまり、《大鵬苑》、《青銅宝鏡》、《山坡羊》、《送郎》、《紗窗外》、《闹元宵》、《走馬燈》、《戒賭詞》（“一更鼓児天”とも言う）、《蜡梅花开》、《鮮花調》、《银组丝》等である。その上演の形式は男女の子供がそれぞれ八人八仙の役をつとめて、八仙が常に持っている道具である「法宝燈」というランプを手に持ち、歌ったり踊ったりして、管弦樂、銅鑼、太鼓の樂隊で伴奏する^{〔*4〕}のである。その中には《闹元宵》という曲もあるが、その歌詞の形式からして、御座樂《闹元宵》の歌詞の形式とはかなり差があるのである。八宝燈《闹元宵》の歌詞は基本的には二つの七字句からなっていて、結びの部分下句の後の5文字を繰り返して“七、七、（五）”となっている。それに対して、御座樂の《闹元宵》の歌詞の形式は“五、五、八（四、四）、八（三、五）”となっている。

泰順県の八宝燈の歌舞においては、《一更鼓児天》というのがある。《闹元宵》という呼び名ではないが、その歌詞の形式や情緒の特徴などは琉球御座樂《闹元宵》に近い。《一更鼓児天》の歌詞の内容は賭博の弊害を表現しているので、別名《戒賭詞》とも呼ばれる。浮き浮きさせる曲の中で、人々に賭博の悪習をやめるように注意を促す。楽しみ喜ぶ情緒が表されている曲である。《闹元宵》の情景と非常に一致している。《一更鼓児天》の歌詞の形式は琉球御座樂《闹元宵》とまったく同じであり、ともに全く同じの二つの部分から一つの段落になっている。各部分の句式の構造は次の通りである。

琉球御座樂《闹元宵》	五	五	八	三	五
泰順県《一更鼓児天》	五	五	七	三	五

したがって、我々が泰順県の《一更鼓児天》のメロディーには、琉球御座樂《闹

〔*4〕《中国民間歌曲集成》全国編集委員会編《中国民間歌曲集成・浙江卷》第430、431ページ。（人民音樂出版社 1993年10月 北京）

元宵》の歌詞を入れて歌ってみると、非常に一致することが分かる。

[譜例 1]

一更鼓兒天

浙江省泰順縣

- | | | |
|---|--|--|
| 2, 二更鼓儿多,
二更鼓儿多,
打赌郎君输了铜钱,
乱做一场,
便来吵闹打架。
站在背后笑,
站在背后笑,
多言多语吵闹别人家,
你看他,
打得头儿来摇, | 3, 三更鼓儿催,
三更鼓儿催,
打赌郎君不能回家中。
输了铜钱,
便把衣衫来卖。
饼来又少钱,
饼来又少钱,
心想吃饼身边又无钱。
没奈何,
只好肚中饥饿。 | 4, 四更鼓儿传,
四更鼓儿传,
打赌郎君慢慢回家转。
假吠吠,
睡在床中。
丈夫你莫赌,
丈夫你莫赌,
你去打赌荒了田和园。
再输钱,
家中生活没法度。 |
|---|--|--|

(罗阳乡俱乐部歌舞队唱 郑继衡、薛天申记)

《中国民间歌曲集成》总编辑部编《中国民间歌曲集成·浙江卷》第 464 页 (人民音乐出版社 1993 年 10 月第一版 北京)

[譜例 2]

琉球御座樂『開元宵』擬構体(一)

注：浙江泰順縣の《一更鼓兒天》のメロディーに歌詞が当てられた。

《中国民間歌曲集成・上海卷》601 頁には、《闹元宵調》という曲がある。名称は琉球御座樂《闹元宵》と同じであるが、その歌詞の形式が違うので、お互いに根本的な関係がないようである。《闹元宵調》の歌詞の句式の字数構造は“七、七、七、七”である。

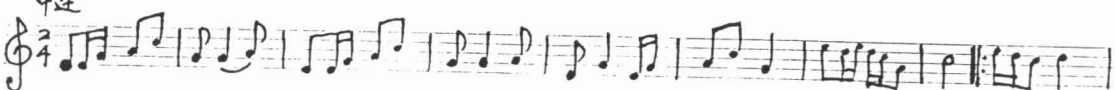
福建省の隣にある江西省の贛県には《元宵歌》という曲がある。新年、元宵の時、“銅錢花棍”（棒に穴つき錢が象嵌されたのは銅錢花棍といわれる）を振りまわして、歌ったり踊ったりする曲である。“銅錢花棍”が上演される時、演技者が手に銅錢棍を持って、踊る各動作に合わせて、銅錢が棒にぶつかり、“タ、タ、タ”という音がする。リズムが軽快で力強い。^{〔*5〕}したがって、この曲は情緒の面では、御座樂《闹元宵》と同じである。また、歌詞の構造も御座樂《闹元宵》に近い。第二句は第一句の繰り返しで、5文字である。第三句は7字で、第四句は6字で、第五句は8字である。この曲の構造は五、五、七、六、八となっている。

【譜例 3】

元宵歌

江西省贛県

中速



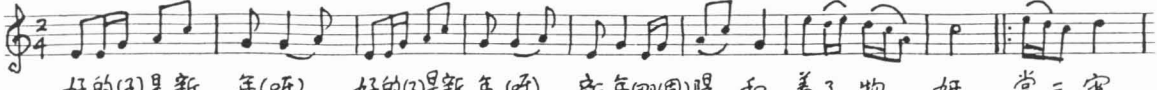
好有(好)正月春(呀), 好有(好)正月春(呀), 正月(那個)花 灯 闹(闹)闹(闹)哄(哄)。請(請)小姐



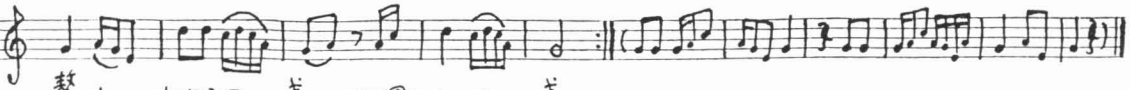
看 花 灯(哟), 得(得)看 花 灯(那個)好 談 心。 中国民間歌曲集成全国編輯委员会《中国民間歌曲集成・江西卷》第1355、1357頁(中国ISBN中心, 1993年3月, 北京)

【譜例 4】

琉球御座樂『鬧元宵』擬構体(二)



好的(好)是新年(呀), 好的(好)是新年(呀), 新年(那個)陽 和 着(着)了 物 妍, 賞元宵,



鰲山 灯(那)万 盞, (那個)灯 万 盞。

注: 江西省贛県の『元宵歌』のメロディーに歌詞が入れた。

〔*5〕《中国民間歌曲集成》全国編集委员会編《中国民間歌曲集成・江西卷》第1363ページ。(中国ISBNセンター 1996年3月 北京)

江蘇省では、御座樂《闹元宵》と関連している曲が4首ある。《烟花女子叹五更》、《太平马灯跳起来》、《五更鼓儿咚》（一）、《五更鼓儿咚》（二）である。

江蘇省南京市のあたりで流行した《烟花女子叹五更》の中心歌詞の形式は御座樂《闹元宵》に似ている。第一句は5字、第二句は第一句の繰り返しであり、第三句は9字（前は4字後は5字）、第四句は3字、第五句は8字である。全体は五、五、九、三、八となっている。しかし、上演されているとき、メロディーに合わせるために多くの字が加えられた。例えば：“哎嗨哟哎嗨哟哎嗨哟”、“哎哟哎哟哎嗨哟，哪个哎嗨哟嗨哟”、“哪哈哈哟哎哟哎嗨哟哎嗨哟”等を加えられて、歌詞が長くなり、さらに、難しくなった。また、歌詞の内容も御座樂《闹元宵》と差が大きい。《烟花女子叹五更》は若い娘が遊女屋に落ちぶれた悲惨な境遇と悲しい情緒を表した歌曲である。メロディーは婉曲で、装飾音（音楽の演奏にアクセントをつけるために、旋律に添える装飾的な音）が多く、リズムは緩慢で長い。また、御座樂《闹元宵》の元宵節を慶祝ような楽しくて軽快な情緒とまったく異なる。

江蘇省丹徒県の《太平马灯跳起来》は民間の馬灯歌舞をする時に歌われる曲である。馬灯は“唱馬灯、踩馬灯”とも呼ばれる。演技者は竹と紙で作られた馬を身にかけて、真ん中に立ち、馬に乗っているように見せる。また、馬を引いている人が一人、一輪車を押す人が一人、馬についている人が二人いる。みな飾り燈籠を挙げ、馬灯を回って通りぬけ、歌いながら踊り、打楽器で伴奏する。歌っている時、糸竹楽器で伴奏することもある。^[*6]《太平马灯跳起来》は馬灯歌舞の時に歌われる曲であり、その情緒はとても軽快で活発である。リズムははっきりして力強い。だから、情緒の面では、御座樂《闹元宵》と似ている。しかも、二者の歌詞の句式字数もほとんど同じである。《太平马灯跳起来》の第一句は5字、第二句は第一句の繰り返し、第三句は7字、第四句は5字、第五句は5字とするので、全般的には五、五、七、五、五となっている。御座樂《闹元宵》と大体同じである。したがって、もし《太平马灯跳起来》のメロディーに御座樂《闹元宵》の歌詞を入れて歌って見たら、かなり一致した。

【譜例5】

太平馬灯跳起来
(馬灯・滿江紅)

江蘇省丹徒県

(岳直卿唱 周根燿記) 《中国民間歌曲集成・江蘇卷》第1100頁(中国ISBN中心, 1938年4月, 北京)

[*6] 《中国民間歌曲集成》全国編集委員会編《中国民間歌曲集成・江蘇卷》第1085ページ。(中国ISBNセンター 1998年4月 北京)

【譜例 6】

琉球御座樂『鬧元宵』擬構体(三)

注: 江蘇省丹徒県の太平馬灯跳起來のメロディーに歌詞が入れた。

上の馬灯歌舞の中には、もう一首《鬧元宵》という曲がある。しかし、この曲は内容の面にしても、歌詞の形式にしても、琉球御座樂《鬧元宵》とかなり大きな差がある。だから、二者の間には、その根本的な関係があるとは言いがたい。馬灯《鬧元宵》の内容は叙述性があり、その歌詞の形式には、第二句は第一句の繰り返しではない。さらに、ともに 7 字句であり、その歌詞の句式構造は七、七、三、八、七、十一（四、七）となっている。

江蘇省北部地区は蘇北と略称され、蘇北地区にも、御座樂《鬧元宵》と関係のある曲が二首ある。すなわち、《五更鼓儿咚》(一)、《五更鼓儿咚》(二)である。この二つの曲は実は同一の曲目の変体である。まず、歌の内容の面においては、この二つの曲はともに若い女性らが恋人に対する恋しさを表したものである。前者は事物に思いを託しているもので、縫い物をしながら、自分の恋しい感情を表している。後者は直接に愛情の描写を表している。次に、歌詞の句式の面においては、二つの曲はともに 5 字句に基づいて、六つの 5 字句からなっている。その句式の構造は五、五、五（四）、五、五となっている。また、メロディーの面においては、前の四句の主要音はまったく同じである。ただ第五、六句だけ少し違っている。この二つの曲は歌詞の形式構造の面においては、琉球御座樂《鬧元宵》と似ているところがいくつかある。つまり、第一句は 5 字、第二句は第一句の繰り返しである。第三、第四句は御座樂《鬧元宵》の第三句から広がったものと見なすこともできる。第五句は《鬧元宵》の第四句より 2 字増えている。第六句は《鬧元宵》の第五句の字数と同じである。ただし、その歌の内容と曲の情緒の面においては、《鬧元宵》と比べてみると、差がかなり大きい。

《中国民間歌曲集成・河南卷》には、御座樂《鬧元宵》と関係のある曲目は五つある。そのうち、そのまま《鬧元宵》と呼ばれる曲は三首あり、《鬧元宵調》と呼ばれる曲は 2 首ある。その三首の河南省の《鬧元宵》では、靈宝県、羅山県の《鬧元宵》は御座樂《鬧元宵》と同名であるが、その歌詞の形式の面においては、差が大きい。靈宝県の《鬧元宵》は七、六、四、五となって、羅山県の《鬧元宵》はメロディーを合わせるために“七、十一、七”に大量の言葉を加えなければならない。しかも、第一句、第二句の内容は違っている。だ

から、その三者の間には、その根本的な関係を見つけがたい。淮濱県の《闹元宵》は御座楽《闹元宵》と、歌詞の形式の面で、共通点がかなりある。まず、二つの曲は第一句、第二句がともに 5 字句である。さらに、第二句は全く第一句の繰り返しである。次に、淮濱県の《闹元宵》の第三句は 7 字で、御座楽《闹元宵》の 8 字に近い。御座楽《闹元宵》の第三句の 3 字句の部分では、淮濱県の《闹元宵》のメロディーに合わせるために、“嗬子赛”という字が加えられる。新県の《佃農歌》(闹元宵調)の同一位置にも“农友呀”という 3 字句がある。したがって、同じような 3 字句だと見なしてもいい。第五句は 5 字である。その歌詞の句式の字数構造は五、五、七、三、五となっている。御座楽《闹元宵》の歌詞の“五、五、八、三、五”と大体同じである。淮濱県の《闹元宵》のメロディーに御座楽《闹元宵》の歌詞を当てて、歌ってみたら、非常に一致する。

【譜例 7】

闹元宵

河南省淮濱県

正月里闹元宵, 正月里闹元宵, 俺跟才郎
来相交那么嗬子赛, 送他个新手表(来), 表(来)

(陈金中唱 許海明記)
中国民間歌曲集成全国編輯委员会《中国民間歌曲集成·河南卷》
第489、490页(中国ISBN中心, 1997年12月, 北京)

【譜例 8】

琉球御座楽『闹元宵』擬構体(四)

好的是新年, 好的是新年, 新年阳和
着了物妍, 赏元宵, 鳌山灯万盏(来), 盏(来)

注: 河南省淮濱県の《闹元宵》のメロディーに歌詞が入れられた。

《闹元宵調》と呼ばれる2首の曲は潢川県の《四季花》と新県の《佃農歌》である。これらの二つの曲は歌詞の型もメロディーも、淮濱県の《闹元宵》と同じである。歌詞の中では、第一、第二句はともに5字であり、第二句は全く第一句の繰り返しである。第三句は7字で、第四句は3字で、第五句は5字である。歌詞の句式構造は五、五、七、三、五となっている。メロディーのいくつかの装飾音には少し違いがあるが、その主要音と大部分のメロディーはほとんど同じである。だから、“闹元宵調”は《闹元宵》のメロディーに、他の歌詞を当てて、歌われたことがわかる。(例えば、四季の花を歌う《四季花》と農民の生活を歌う《佃農歌》)。実際は《闹元宵》のメロディーによる多種歌詞の変体である(即ち、一曲多詞である)。

このほか、《中国民間歌曲集成・山西卷》の中にも、《闹元宵》という曲が五首もある。御座楽《闹元宵》と同名の曲ではあるが、御座楽《闹元宵》と比較してみると、いくつかの曲は内容や情緒に共通点があるが、歌詞の形式が違う。例えば：寧武県の《闹元宵》、五台県の《闹元宵》、朔県の《闹元宵》などである。またある曲は内容や情緒には少し差があるが、歌詞の形式も違う。例えば：沁源県の《闹元宵》、侯馬市の《闹元宵》などである。

《中国民間歌曲集成・寧夏卷》の中にも、関係の曲目が4首ある。そのうちの3首は御座楽《闹元宵》の歌詞の形式に近いが、内容や情緒が違う。例えば：固源県の《五更鼓》、賀藍県の《闹五更》、石嘴山市の《三国志》など。もう1首は隆徳県の《喜新年》(社火調)で、歌詞の形式も、内容も、御座楽《闹元宵》に近い。

陝西省米脂県の《五更怨》や河北省張家口市の《五更寒》は御座楽《闹元宵》と比べてみると、歌詞の形式は同じであるが、内容、情緒のほう異なる。

上のことを総括的に言うと、筆者が分析した24首の中国の曲目と琉球御座楽《闹元宵》との関係は次のようにまとめられる。

- 1、曲目が同じで、内容や情緒に大差がないが、歌詞の形式が違う。だから、根本的な関係があることは認められない。例えば：浙江省泰順県の《闹元宵》、上海市上海県の《闹元宵》、河南省靈宝県の《闹元宵(花鼓調)》、河南省羅山県の《闹元宵》、山西省沁源県の《闹元宵》、侯馬市の《闹元宵》(花鼓調)、寧武県の《闹元宵》、五台県の《闹元宵》、朔県の《闹元宵》等、合計9首ある。
- 2、曲名が違い、内容や情緒も異なるが、歌詞の形式が同じである。例えば：江蘇省南京市の《烟花女子叹五更》、蘇北の《五更鼓儿咚》(一)、《五更鼓儿咚》(二)、寧夏固源県の《五更鼓》、賀藍県の《闹五更》、石嘴山市の《三国志》、陝西省米脂県の《五更怨》、河北省張家口市の《五更寒》等、合計8首ある。
- 3、歌詞の形式が同じで、内容や情緒にも大差がない。そのメロディーに御座楽《闹元宵》の歌詞を当てて、歌ってみると、非常に一致する。例えば：

浙江省泰順県の《一更鼓児天（八宝燈）》、江西省贛県の《元宵歌（銅錢花棍）》、江蘇省丹徒県の《太平馬灯跳起来（馬灯）》、寧夏の《喜新年（社火調）》等、合計4首ある。

- 4、曲名や内容や情緒が同じで、歌詞の形式も変わらない。そのメロディーに御座楽《闹元宵》の歌詞を当てて、歌ってみると、かなり一致する。例えば：河南省淮濱県の《闹元宵》及びその曲が同じだが、歌詞が違う潢川県の《四季花（闹元宵調）》、新県の《佃農歌（闹元宵調）》等、合計3首ある。

以上、御座楽《闹元宵調》の関連曲の中では、曲名や、内容情緒や、歌詞の形式から見ても、メロディーに御座楽《闹元宵》の歌詞を入れる適切さから見ても、御座楽《闹元宵》の起源の曲目として、まず河南省淮濱県の《闹元宵》が挙げられる。その次は浙江省泰順県の《一更鼓児天（八宝燈）》である。というのは、浙江省泰順県は琉球王朝の使節団が明・清の時、中国へ朝貢に来る道程にあり、琉球人が泰順県の民間歌謡の影響を受ける可能性が考えられるからである。筆者は御座楽《紗窓外》を考証した時、これらのことも考慮してみた。だから、御座楽《闹元宵》の根本を探る時、これらの要素も考えてほしい。

冲绳压圻符溯源与考释

林国平

近三十年来，在冲绳本岛和周边一些岛屿陆续发现近二十枚十分珍贵的压圻符，^{〔*1〕}洼德忠先生和山里纯一先生先后撰文介绍，^{〔*2〕}特别是洼德忠先生还旁征博引，用极为丰富的文献资料对压圻符进行考释，基本上揭开压圻符的神秘面纱，为我们后辈进一步研究压圻符奠定的基础。遗憾的是，洼德忠先生只是对个别压圻符中的文字和符号进行考释，尚有一些文字和符号暂时无法解读，笔者不揣浅陋，利用考古学、文献资料和民间收集资料等，对冲绳压圻符的来源进行简要的追溯，并对洼德忠先生未能解读的文字和符号进一步加以考释，权且作为洼德忠先生研究的一点补充。

—

“符”字的本意是古代用于出入关时的凭证，最初用竹片制作，称符节，相当于通行证。道士的书劾秘文之所以称为“符”，也是取凭信、契合之意。有二种含义，一是指通过画符与上天或神灵沟通，以合上天或神灵的至高无上意志并取得无穷的神力；二是指符箓灵而有验，“利益众生，信若符契。”^{〔*3〕}

符箓的表现方式具有浓厚神秘的色彩，一般人看不懂符箓的含义，以为是道士胡乱涂画而成，所以在中国流传有“鬼画符”的俗语，用来比喻字迹潦草，难以辨认的文字。实际上，道士画符除了有一套理论指导、有繁琐的仪式和特殊的技法外，还有一套画符的原则和章法，绝非乱画一气，否则，在他们看来符箓就不灵了。《云笈七签》卷七“符字”条：“符者，通取云物星辰之势；书者，别析音句铨量之旨；图者，画取灵变之状。然符中有书，参以图象；书中有图，形声并用。”也就是说，符箓主要由符号、文字和图象等三种方式构成。

符箓的符号多是云物星辰之势，如风、云、神气的符号是：
表示神灵从天乘风而降和神灵旨意通过云气达于人间，或表示施符者的先天之与天地感通，使符箓获得灵性，成为“灵符”。也有约定成俗，道



〔*1〕 洼德忠先生认为，此类符箓有别于别的符箓的地方是要安置在墓中，故称之“墓中符”比较合适。平敷令治先生在《冲绳之墓志》中称之为“阴符”。笔者以为，命名要充分尊重历史，如清初魏明远《增补象吉备要通书大全》称此类符箓为“生坟压圻灵符”，从此类符箓的功效来看，称之为“压圻符”似乎更为恰当。

〔*2〕 洼洼德忠《冲绳民间信仰》，ひるぎ社，1982年；山里纯一《流传于久米岛的咒符诸相》，载《久米岛上东亚诸文化媒介事象的综合研究》1999年3月。

〔*3〕 《云笈七签》十二部。

内人一望便知。

符箓上的文字是将有关神鬼的名称直接书写在上面,有的文字虽然作局部的变形,常增加或减少笔画,不过稍加研究,多数还是可以辨认的。少数符箓的文字受篆隶的影响很深,加上道士为了增加神秘感,故意将文字进行整体变形,因此不易辨认。

符箓上的图象则不能随意乱画,要求“画以象真”,才能“有灵相通”。道教认为,只要在符中画上某物,便可与此物感通,甚至成为此物体的化身,具有此物体的功效,可以召致精灵来依附,成为“灵符”。当然,由于符箓的制作者的绘画技能参差不齐,符箓上的图象有的相当逼真,有的则比较粗劣,有的符箓的图象内容丰富,相当于一幅风俗画。如下列二符^(*)：

【图 1】



镇宅符

【图 2】



阴宅符

二

洼德忠先生从中国文化的角度解读压坟符,提出许多精辟的见解,但他在台南调研时,根据没有发现类似的墓中符,风水先生不会绘制和使用墓中符,推测“这些墓中符是冲绳地方特有的。”^(*)这一推测并不符合历史事实。在中国,不但有种类繁多包括与冲绳相似或完全相同的压坟符,而且历史十分悠久,直接对冲绳压坟符产生影响,因此有必要对压坟符的渊源进行简要的追溯。

压坟符的出现是与中国的风水理论联系在一起的。在中国民间特别在江南地区,无论是建造房屋还是营造坟墓都十分注重风水。民间建造坟墓从选址、开工、建造、竣工到最后入葬,每个环节均有复杂的仪式。风水先生认为,营造坟墓必然要惊动土神地煞,可能给生者带来灾难,所以要用具有神奇法力的符箓和咒语才能化凶为吉。与营造坟墓有关的符箓主要有两类:一是在选址、开工、建造坟墓过程中使用的符箓,通常画在纸张上,风水先生(或道士)举行简单的仪式并念完咒语后便焚

^(*) 【图 1】【图 2】均见于敦煌文书伯三三五八《护宅神历卷》。

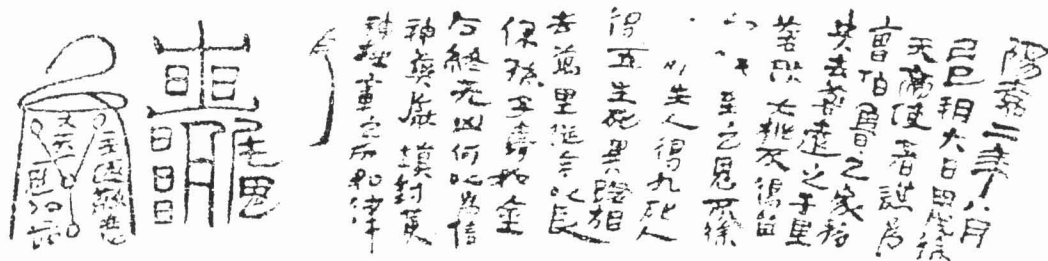
^(*) 洼洼德忠《冲绳民间信仰》P199,ひるぎ社,1982年。

化；二是坟墓竣工后使用的符篆，有的为纸制使用后即焚化或安放在坟墓中，有的则画在陶瓶、砖头或石质墓券上，安放在坟墓中。

画在陶瓶、砖头或石质墓券上的压圻符的历史比较久远，考古发现，早在东汉未就已用道符来镇墓，如陕西户县朱家堡曹氏汉墓出土的阳嘉二年(133年)的朱书陶瓶，陶瓶上近百字的解除凶煞文，文的末了有“封黄神越章之印如律令”字样，解除凶煞文之后附有两道符篆^{〔*6〕}（图3）。据王育成先生考证，分别由时、日、月、尾、鬼、和索形、星以及“大天一主逐敦恶鬼以节”文句组成。^{〔*7〕}南朝以后，压圻符与买地券融为一体，如刘宋元嘉十年(433年)徐副买地券已出现北斗七星、文昌六星、房宿四星、衿二星、心宿三星构成的星象符。^{〔*8〕}

唐宋时期，压圻符与买地券融合而为一的现象在中国许多地方都有发现。如1993年8月，在福建漳浦发现唐代的砖制买地券，宽30厘米，长31厘米，厚2厘米，券面上刻了128字，写明向冥界地主主张坚固李亨度购买墓地的方位、花费冥钱等，末了有符篆经常使用的“急急如律令”字样，实际上使买地券具有符篆的功效。1996年，在福建泉州发现南宋绍兴十九年（1149年）碑形陶质

【图3】



东汉阳嘉二年朱陶錄上的解除文与进行

的买地券，碑首刻饰北斗七星图案，碑座堆贴莲瓣，券文为阴刻，券文末了也有“太上老君急急如律令”的字样，券文后面还有模糊不清的符篆（图4）。^{〔*9〕}1977年，在福州北郊出土宋淳祐三年（1243年）砖制买地券，正面丹书十六行，券文有：“维淳祐三年岁次癸卯朔二十二日甲子辰时末，以符告天一地二孟仲四季黄泉后土工文武土历土伯土星土宿下二千石神蒿里父老武夷山王玄武鬼律地女星，……今以牲羊酒食，其(共)为信契，或有无道思(鬼)神，不得干犯亡灵，先有居者，永避万里。若

〔*6〕《考古与文物》1980年1期。

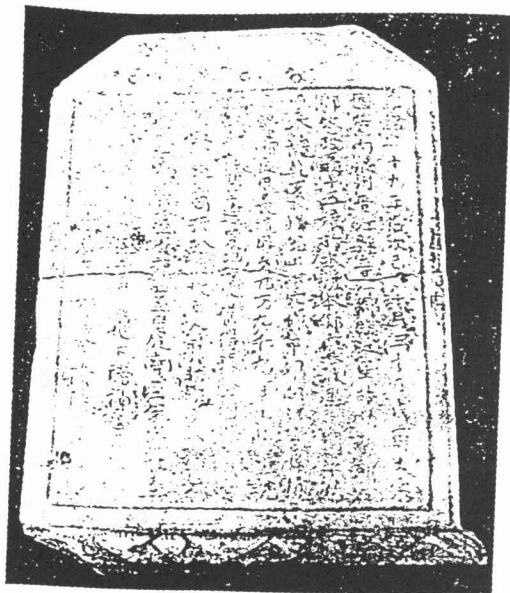
〔*7〕王育成：《东汉道符释例》，《考古学报》1991年1期。

〔*8〕王育成：《徐副买地券中天师道史料考释》，文载《考古》1993年6期。

〔*9〕陈健鹰《读碑三题》，文载《闽台民俗》创刊号，1997年12月版；陈健鹰《宋绍兴十九年买地券》，文载《福建文博》2000年1期。

违此约，直符使者自当其祸。保护亡魂安稳，荫佑生人平康。五帝使者奉太上勅急急如律令。”〔*10〕

【图4】



南宋绍兴十九年泉州买地券

明清时期，压圻符从原来的与买地券合而为一的状态中分离出来，独立成符。如1980年发现的明末湖南石门县夹山寺奉天玉和尚遗址发掘的压圻符（图5），〔*11〕和1982年发现明代万历32年（1664年）贵州思南张守宗墓出土的压圻符（图6—1、图6—2）〔*12〕基本相同，均为此类型。

【图5】



湖南石门县奉天玉遗址符砖拓本

〔*10〕《福州市北郊南宋墓清理简报》，文载《文物》1977年第7期。

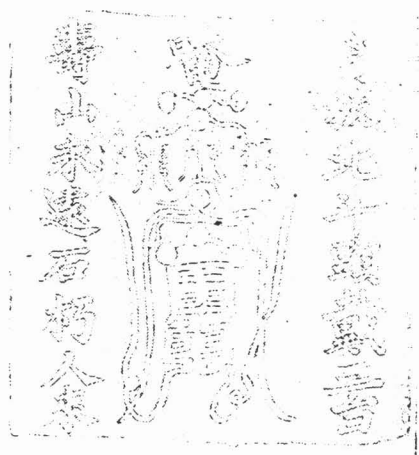
〔*11〕关于湖南石门县夹山寺奉天玉和尚遗址发掘的压圻符，曾引起一桩公案。穆长青先生将此压圻符的部分符号破译为“闯王陵”，推论奉天玉和尚就是明末农民起义领袖李自成，得出李自成兵败后隐居在石门县夹山寺的结论，引起轰动。王育成先生则从符篆学的角度解读，逐条批驳穆长青先生的观点，认为“此类道符与汉字联语与李自成毫无关系”。详见王育成《中国古代道教奇异符铭考释》，文载《中国历史博物馆刊》1997年2期。

〔*12〕转引王育成《中国古代道教奇异符铭考论》，文载《中国历史博物馆刊》1997年2期。

【图 6—1】



【图 6—2】



贵州思南张守宗墓符砖摹本

在一些风水书籍和通书中，也收录压坟符。如玉彻莹的《地理直指原真大全》卷3收录有“阴阳寿坟灵符”，要求“男左女右朱字写砖上”。^(*)13)康熙六十年出版的潭阳魏明远编纂《增补象吉备要通书大全》卷27“生坟压坟灵符”条收录“阳坟灵符”和“阴坟灵符”各一道（图7—1、图7—2）。笔者在闽东福安县民间调查时，发现与《增补象吉备要通书大全》收录的完全相同的“阳坟灵符”和“阴坟灵符”，经过多方寻查，才知道出自福鼎风水先生董珍辉编著的《星华堂董珍辉大通书·符法杂篇》（图8—1、图8—2）。

【图 7—1】



【图 7—2】



(*)13) 转引刘晓明《中国符咒文化大观》P350，百花洲文艺出版社，1995年12月。

【图 8—1】



背面书写长命富贵吉

论方家用方砖朱砂中

【图 8—2】



右边书

寿山永运朽石人来

左边书

身披北斗头戴三台

据董先生介绍，绘制压坟符所用的砖头没有一定规制，一般用当地建房的砖头，长 20 厘米，宽 15 厘米。旧时用毛笔蘸朱砂绘制，现在用毛笔蘸红色水彩颜料绘制。绘制时要一心不乱、一气呵成。当地百姓营造坟墓时，大多在新建的坟墓中要安放压坟符，祈求长寿吉祥。安放压坟符时要选择吉日，避开山位神杀，山位是相对于星位而言的。顺十二宫（星宿）为吉，逆十二宫为凶。压坟符安放在墓穴中，即封墓门。寿星（新墓的未来主人）不能参加安放压坟符和封墓门仪式，否则会招来横祸，甚至突然去世。在江南的许多地方，封墓门前要在墓穴中放一瓶清水，几年后，打开墓门，检查瓶中的清水是否变浊，瓶子是否倒下等等，原来的形状改变了，就说明此地风水不好，不敢再埋葬骸骨。

另外，1986 年和 1992 年在台湾先后出版的《符咒施法全书》和《灵符坤咒全书》中也收录有阳坟符（男用）和阴坟符（女用）两式，与《增补象吉备要通书大全》和《星华堂董珍辉大通书》收录的压坟符基本相同。^{〔*14〕}

三

近年在冲绳及周边群岛所发现的压坟符，明确刻写时间的有二枚，一枚是道光八年（1828 年），另一枚是道光十九年（1839 年），据此可知，在冲绳，将压坟符安放在墓穴中的习俗至迟在十九世纪初就形成。湊德忠先生认为此习俗的形成可能始于十八世纪中叶。^{〔*15〕}笔者基本同意湊德忠先生的判断，不过，中琉关系在明末清初就十分密切，民间文化来往非常频繁，中国风水说也在这个时期传入琉球，因此，从中琉关系史来看，压坟符传入冲绳的时间恐怕还要早于十八世纪中叶。

由于客观条件限制，笔者未能见到冲绳压坟符的实物，只是从湊德忠先生和山里

^{〔*14〕} 转引王育成《中国古代道教奇异符铭考论》，文载《中国历史博物馆刊》1997 年 2 期。

^{〔*15〕} 湊德忠《冲绳民间信仰》P200，ひるぎ社，1982 年

纯一先生的论著中见到它们引用的 13 张压坟符（分别为 7 张和 6 张），还有谢必震先生提供的在冲绳县立博物馆拍摄的 2 张照片，剔除相同的符，本文对其中 8 张有各种符号的压坟符，逐一解读如下：

【图 9】





冲绳县立博物馆摹写

此符与（图 5）、（图 6—1）、（图 7—1）、（图 8—1）大同小异。压坟符分“阳坟符”和“阴坟符”至迟开始于明代万历，贵州思南张守宗夫妇的压坟符即为目前所发现的最早的“阳坟符”和“阴坟符”，“阳坟符”安放在男人的墓室中，“阴坟符”安放在女人的墓室中，两者不但在符式上有所区别，而且安放在墓室的位置也不同。据文献记载，“阴坟符”的朝向是“向外立”，而“阳坟符”的朝向是“向内立”。^{〔*16〕}《灵符神咒全书》在阴坟符和阳坟符之旁注曰：“凡人家单葬妻葬、单葬夫葬，古有阳待阴、阴待阳之说，若不压镇，必主重葬。宜用新砖一个，么（磨）青做平，上书神符，左边写身披北斗头戴三台，右边写寿山永远，石朽人来，背书长命富贵，葬后十年大吉。”^{〔*17〕}把阴、阳坟符的作用说的一清二楚。

“唵”为佛教咒语，洼德忠先生已作了详尽的解释，表明压坟符受到佛教的影响。

〔*18〕

“唵”的下方“”和“”符号为“三清”^{〔*19〕}。所谓“三清”有两个含义，一是指玉清、上清、太清三个道教最高的“清境”，二是指居住在三清境的三位道教最高天神，即玉清原始天尊（又称天宝君）、上清灵宝天尊（又称灵宝君、太上道君）、太清道德天尊（又称太上老君、神宝君），符篆上的三清显然是指三位最高的天神。由于三清的地位至高无上，因此符篆中的三清符号最为常见，至今仍

〔*16〕 洼德忠《冲绳民间信仰》P180，ひるぎ社，1982年。

〔*17〕 转引王育成《中国古代道教奇异符铭考论》，文载《中国历史博物馆刊》1997年2期。

〔*18〕 参见王育成《中国古代道教奇异符铭考论》，文载《中国历史博物馆刊》1997年2期。


〔*19〕 王育成先生认为表示“三台”，并做了详尽的论证，详见王育成《中国古代道教奇异符铭考论》，文载《中国历史博物馆刊》1997年2期。关于“三台”的由来、功效等，详见洼德忠《冲绳民间信仰》P181—189。

是如此。三清的符号多位于符头，有多种画法，如



等，表示是奉三清之命召神遣将的，是符篆具有很高的效率。^{〔*20〕}民间在画三清符号时要诵念咒语曰：“符令符令，头戴三清，镇天天请，镇地地灵，镇人人长生，镇鬼鬼灭冥，镇去凶神恶煞走不停。吾奉太上老君敕，神兵火急急如律令。”^{〔*21〕}

“生、护、养”三字，汪德忠先生也作了解释，恕不重复。



“生、护、养”之下的符号“”是北斗星。在中国，有“南斗注生，北斗注死”的说法，传说北斗星君是众神的总管，地位仅次于三清，书其符号，便意味着具备驱役神将的资格和能力。如同三清符号，北斗的符号在符篆中经常出现，称之为北斗星符。北斗星又经常画成










北斗星的符号下方的文字和符号



台湾某道士解读为为“开吕一口天吴律令”，汪德忠先生对此说法提出怀疑，但未能进一步解读，笔者也不同意台湾道士解读。王育成先生解读石门奉天玉阳圻符中

的“”解读为“门天口罡天元律令”，其中“”为“门天口”，即天之门

户；释“”为“罡”字变形；将“”解读为“天元”，意为天之元始，是天尊元始的省写。整道符的意思是：真言唵保佑，三台生我，三台养我，三台护我，北斗七星在紫微宫门罡镇，此符如元始天尊律令。^{〔*22〕}


王育成先生是中国研究道教奇异符篆的专家，他的解读不乏精辟见解，对我们解读冲绳压圻符很有帮助。但是，由于此道符篆具有许多特殊之处，就日前所掌握资料，要正确解读此符号文字，确实有很大的困难。王育成先生释“”为“门开口”自圆其说，然而释“”为“罡”字变形，似不当，我们所见到的符中的“罡”均位于符脚，且多变形为“”。我认为“”为“口”字变形，“”为

〔*20〕 参见刘晓明《中国符咒文化大观》P106—110，百花洲文艺出版社，1995年12月；刘枝万《闽山教之收魂法》，见《中国民间信仰论集》P226—228、P257—258、P267，（台湾）中央研究院民族学研究所出版，1994年二刷。

〔*21〕 刘枝万《闽山教之收魂法》，见《中国民间信仰论集》P226，（台湾）中央研究院民族学研究

〔*22〕 详见王育成《中国古代道教奇异符铭考论》，文载《中国历史博物馆刊》1997年2期。

“天”字变形，合为一字为“昊”字，“”为“天”，这在符中并不少见。因此，

“”可以初步解读为“门天口昊天律令”。

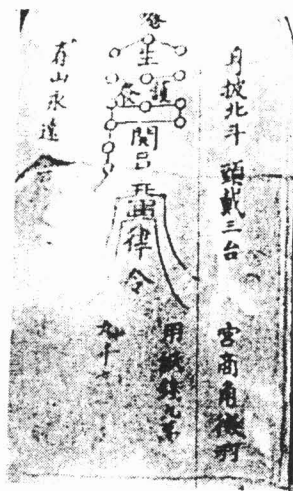
左右两边的文字：“身披北斗、头戴三台”和“寿山永远，石朽人来”，是祈祷性的咒语，“身披北斗、头戴三台”是说此墓受“北斗”和“三台”星君的保佑，“寿山永远，石朽人来”是说此坟墓的主人寿如山岳，永远生存，直到石头烂了，他才来到坟墓中。中国古唐宋时期的成都、上海等地，曾经有在寿冢中安放小石人的习俗，石人的背面还刻有“石若烂，人来换”的字样，“石朽人来”的咒语显然是从此风俗演化而来的。^{〔*23〕}

总之，【图9】压坟符所要表达的宗信息是，本墓地既受佛教咒语的保护，也受道教三清、北斗、三台、昊天等神灵的保护，祈祷坟墓的主人寿如山岳，石朽人来。

【图10—1】



【图10—2】



【图10—3】



图【10—1】与图【9】不同之处有两处：符头上端为两个“人”字，右边正写，左边倒写，正写的“人”表示活着的人，倒写的“人”表示死去的人，寓意无论是活人还是死人，都受此符的保护。符脚下端多出了“宫商角微羽，用纸钱九千九百九十贯山一段”的字样，其中“宫商角微羽”的“微”应是“徵”之误。“宫商角微羽”是中国古代音阶的五个名称，也叫“五音”，五音齐全和谐便为美妙音乐。古人又把“五音”和“五行”联系起来，土为宫，金为商，木为角，火为徵，水为羽。在压坟符中写有“宫商角微羽”字样的比较少见，寓意是此乃五音（五行）齐全的风水宝地。

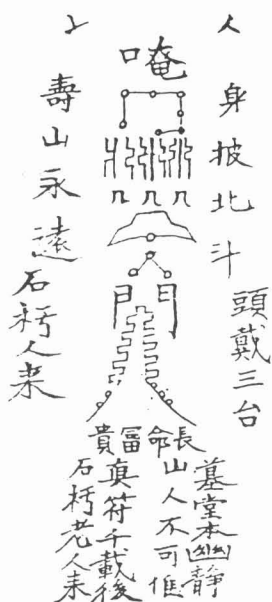
“用纸钱九千九百九十贯山一段”的字样，是从买地券演变而来的。前面提到，古人营造坟墓时，往往要举行一定仪式，象征向冥界地主购买墓地，并将所购买坟

〔*23〕 详见王育成《中国古代道教奇异符铭考论》，文载《中国历史博物馆刊》1997年2期。

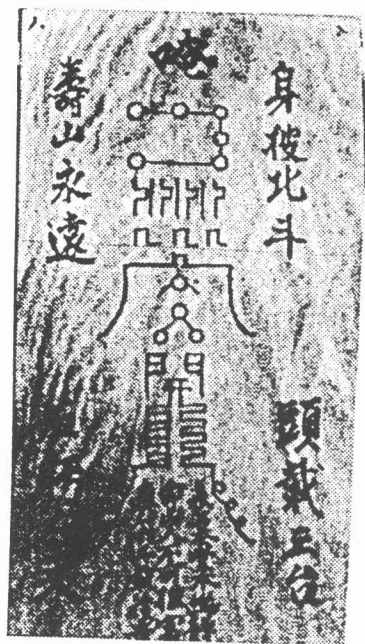
墓的方位、花费冥钱等刻在砖、石之上，即买地券。宋代以后的买地券中记载的冥钱均为“九万九千九百九十贯”，^{〔*24〕}在中国古代，“九”被认为是数字中最大的，所以“九万九千九百九十贯”并非实数，而是象征以巨额金钱购买此风水宝地。

【图 10—1】所包含的宗教信息除了与【图 9】一样的本墓地既受佛教咒语的保护，也受道教三清、北斗、三台、昊天等神灵的保护，祈祷坟墓的主人寿如山岳，石朽人来之外，还增加了以下内容：即这是一块用巨额金钱购买的五音（五行）俱全的风水宝地，能使死者入土为安，不受侵扰，活者平安，子孙繁荣昌盛。

【图 11—1】



【图 11—2】



【图 11—1】和【图 11—2】基本相同，所不同的只是在符脚下方的祈祷咒语，主要有三处：一是【图 11—1】的“长命富贵”四字横排，而【图 11—2】将“长命富贵”四字拆开，分别放在“墓堂本幽静，山人不可推，真符千载后”的两端。二是【图 11—1】有“墓堂本幽静，山人不可催，真符千载后，石朽老人来”四句咒语，而【图 11—2】则少了“石朽老人来”的字样；三是【图 11—1】为“山人不可催”，而【图 11—2】为“山人不可推”。笔者以为，【图 11—1】的“山人不可催”是正确的写法，所谓“山人”原意是指掌管山林的官吏，这里延伸为掌管坟墓的鬼卒，“不可催”的意思是不要催促，如果用“推”字则文义不通。“墓堂本幽静，山人不可催，真符千载后，石朽老人来”四句咒语的大意是：墓堂本来就是幽静的场所，掌管坟墓的鬼卒们不要催促，有了压坟真符的保护，等到千年以后，石头朽烂了，坟墓的主人才会到来。

综观其他资料，应该说【图 11—1】是通行的格式，而【图 11—2】为什么会有这些差别，确实令人不解。认真观察【图 11—2】符脚下方的祈祷咒语的书写位置，过于靠近上端，无法横排容纳四个字，也就自然不能容纳竖写四句话，可能是【图





〔*24〕 参见陈健鹰《宋绍兴十九买地券》，文载《福建文博》2000年1期。



11—2】作者灵机一动，才写成现在见到的这样格式，当然这只是笔者的一点猜测而已，有待新资料的发现。

【图 11—1】和【图 11—2】所要表达的宗教信息与【图 10—1】也基本一样。所不同的有：“𠄎𠄎𠄎”符号，表示人的身体，上方为北斗，是旁边字“身披北斗”的形象化；符号“几几几”为三台的形象化；图象为帽子形状，与三台符号结合在一起，成为“头戴三台”的形象化；符号“𠄎”为“天”，弯弯曲曲的线条表示云气，从天而降。

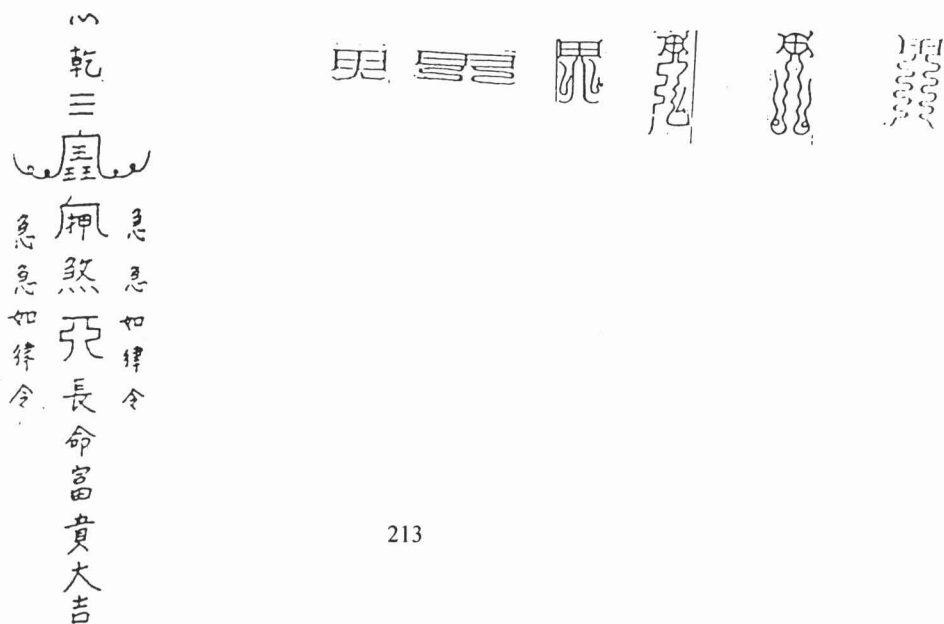
【图 12—1】



【图 12—1】中的“”符号为北斗，“”符号表示身体，“”符号为三台，“”符号为运气从天而降，又象征人的头部；

“”符号为三清，“”符号为“鬼”字的变形。中国民间流传一种名叫厌胜的巫术，即用某种具有魔力的物品或咒语来避邪趋吉，对于鬼怪，认为只要喊出其名字，便可制服之。以此类推，书写鬼怪之名亦能厌胜，《阅微草堂笔记》卷 5《滦阳消夏录五》转引他人的话说：“道书载有二鬼，一曰语忘，一曰敬遗，你能使人难产。知其名而书之纸，则去。符或制此二鬼坎？”因此，在道教符箓中，书“鬼”字以制鬼，十分常见。“鬼”字在符箓中有各种变体，但多可以辨认，如

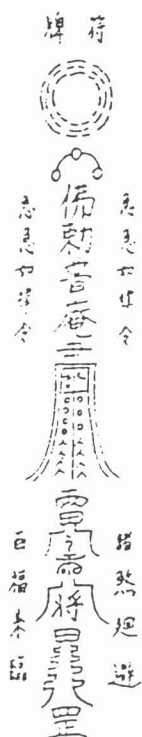
【图 13】



“ㄨ、ㄨ、ㄨ”符号为三清；“☰”符号为周易的“乾”，为阳，坟墓为阴宅，属阴，“乾”的符号是想用阳来与阴相配，使阴阳和谐。“☰☷☵”符号表示“三王”奉三清之命从天上乘风云下凡；“三王”是哪三位神灵？有两种可能：一是前面提到的三台，二是三官，相比之下三官的可能性更大些。三官又称三元，指天官、地官、水官三位神灵，其功能与人的祸福荣辱有密切关系，所谓天官赐福，地官赦罪，水官解厄。在道教中，三官是十分显要的神明，信仰三官的百姓极多，三官庙遍布全国。“押”符号表示押解恶煞。在符箓中，画“押”字也是较常见厌胜方法，表示押送鬼怪到该去的地方，《夷坚甲志》卷12记载有索命鬼用书有“押”字的符，押解一名叫高俊的人前往阴曹地府的故事，经过如下：“绍兴二十二年正月辛亥，（高俊）登夔之高山，逢一人，披发执杖，出符示俊曰：‘受命追汝’。俊恐怖，亟归。彼人随之不置。俊至家，举食器掷之，彼人怒扼其喉，俊立仆地，即觉从而西。且行且出其符，凡大书数行，后有押’字，俊不识也。行久之，路正黑，俄，豁然明，见城郭严峻……”就是在此“押”字符的作用下，高俊不能有任何反抗而随索命鬼到了阴曹地府。“煞”又称“杀”，是一种凶神，经常用符箓来厌胜。北齐颜之推《颜氏家训·风操》：“偏旁之书，死有归杀，子孙逃窜，莫肯在家，书瓦书符，作诸厌胜。”在中国南部，百姓对传说中的“煞”的害怕程度有时超过对鬼怪的恐惧，因此采取种种办法加以厌胜，如在中国南部和琉球广为流传的石敢当的主要功能就是用来厌胜“煞”的。“天”符号为“天”字。其余的文字“急急如律令、长命富贵大吉”等一望便知，无须解释。

此压坟符主要用于制服凶煞的，所要传达的宗教信息是三清敕令三王火速下凡，押送凶煞回府受审；此墓地阴阳和谐，天帝保佑坟墓的主人及子孙长命富贵，大吉大利。

【图 14】




“符牌”两字没有多少实际意义，只是说明写在木牌上文字符号是符箓而已。“☰☷☵”符号为八卦图形，八卦相传为伏羲所创，每个图形均由“--”（阴）、“—”（阳）的符号按三个一组进行不同排列构成，其名称和图形是：乾（☰）、兑（☱）、离（☲）、震（☳）、巽（☴）、坎（☵）、艮（☶）、坤（☷）。八卦在《易经》中象征天、泽、火、雷、风、水、山、地等八种自然物，并可以象征宇宙的一切。在中国，民众赋予八卦以某种神秘的力量，往往用它来避邪去煞，至今在一些乡村的百姓家门上，还可以见到挂有八卦符牌以避邪去煞的习俗。


“ㄨ”符号为三清。“佛敕普庵”的“佛”是指佛祖释迦摩尼。“普庵”是指宋代时的名僧，后来成为神明，

信仰者很多，《三教搜神大全》卷二有《普庵禅师传》，可以参阅。








“”由“肃”、“北斗”、和七个圆圈、八个“人”字构成。“肃”有恭敬、迅速敏捷等多种含义，在这里主要含义为“迅速”，指有关神灵迅速奉命行事。“肃”内有“北斗”二字，虽然有些变形，但仍可辨认。七个圆圈寓意北斗星君，八个“人”

字表示风雨雷电等八将，与下面的“”相吻合。“雷”之下字是“公”字抑或“令”字，待考。

“”为“鬼”字；“罡”是星名，原指北斗星的斗柄。民间又说北斗丛星中





有三十六神，称三十六天罡。中国古典名著《水浒》描述的一百零八条好汉，说是天罡地煞转世，前三十六条为天罡星转世，后七十二条好汉为地煞星转世。在符箓上书“罡”字，主要是用来制煞的。此压圻符所传达的宗教信息是：伏羲八卦、三清和佛祖一起敕令普庵神迅速调遣北斗星君、雷雨八将等众神，下凡镇鬼驱煞，诸煞回避，百福来临。

【图 15】

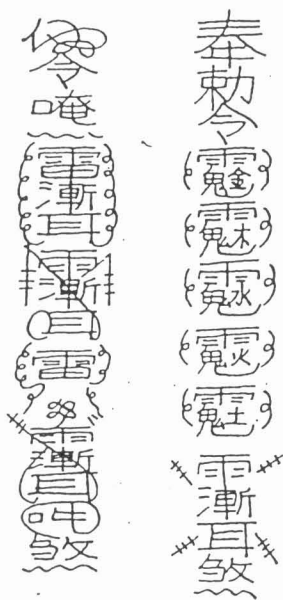

 敕令




 楊公
 九牛
 破土
 大将
 急急
 如律
 令

【图 16】



敬
 九天
 玄君
 楊曾
 廖諸
 神師
 到山
 催官
 大吉

【图 15】符头“”符号为三清；“、、”符号的“雨”字头在符箓中比较常见，见下图。


【图 17】





据福州道士陈道长说：“符篆上的‘雨’字头表示‘雷’，称‘雷令符’，雷令符对于劾鬼驱魔有特殊的功效。”这

一说法在“”和“”的交叉使用，可以得

到证明。^{〔*25〕}

“雨”字头之下的“”为“雷”、“火”和“鬼”字，“雨”和“雷”字重叠，具有进一步调化雷的威力的作用。道教符篆中各种各样的雷符，如五雷符、雷神十将符等，仅五雷符就多大七十二种。这是因为在中国，百姓对雷电特别惧怕，故赋予雷神以“主天之灾福，持物之权衡，掌物掌人，司生司杀”的职能，并创造了总领雷部的神灵——九天应元雷声普化天尊，画雷符的目的就是要借用雷的威力来劾鬼驱魔。

道符上书写“火”字也常见，《子不语》卷一记载，苏州韩其武家有仆人名叫阿龙的，因归附体，“痴迷不食。韩氏召女巫诊之，巫曰：‘取县官堂上朱笔，在病者心上书一正字，颈上书一刀字，两手书两“火”字，便可救也。’韩氏如其言，书至左手火字，阿龙张目大叫曰：‘勿烧我，我即去可也。’自此怪遂绝，阿龙至今犹存。”鬼怪为何害怕火呢？因为火属阳，鬼属阴，阳可克阴，故书写“火”字可以制伏魔鬼。“雷”、“火”的左侧为“鬼”字，寓意用雷、火来制鬼。“”、“”分别由雷、日、鬼和雷、月、鬼组成，“日”和“月”为三字重叠，取强化威力之意。中国对日、月的崇拜可以追溯到原始社会，道教承袭了日、月神崇拜，并将日神与月神相配，日中有青帝、赤帝、白帝、黄帝、黑帝等五帝，月中有青帝、赤帝、白帝、黄帝、黑帝等五帝夫人。五帝和五帝夫人均是制鬼驱魔的高手，故符篆上书“日、月”以厌胜鬼怪。

在【图 15】和【图 16】中，特别要注意的是“杨公九牛破土大将军”和“杨曾廖诸神”等字样。“杨公”是指唐代风水大师杨筠松，杨筠松本名益，字叔茂，号筠松，祖籍广东，寓居江西，自称救贫，民间多称之“杨救贫”或“救贫先生”。唐僖宗封他为国师，官至金紫光禄大夫，掌管灵台地理事。唐亡后，隐居赣州，传说有《疑龙经》、《撼龙经》、《黑囊经》、《三十六龙》、《青囊奥语》、《正龙子经》等风水著作，后世风水先生奉其为形法派的始祖，在赣南、粤东、闽西地区影响很大，广泛流传

^{〔*25〕} 关于渐耳或霰，有多种传说，皆与制鬼相关。唐张读《宣室志》称渐耳为唐代河东人冯渐，其人善于制鬼。唐段成式《酉阳杂俎续集》则云霰为汉驱傩时所用沧耳，谓阴刀鬼名。清袁枚《子不语》谓霰乃鬼死后之名，故鬼畏之。参见刘晓明：《中国符咒文化》P341，百花洲文艺出版社 1999 年 11 月版。

与营建风水有关的杨公符。近年来，笔者在闽西等地调研时，也收集在多种杨公符，见【图 18】：

【图 18】



【图 19—1】



【图 19—2】



多数杨公符并列杨（筠松）、曾（文遄）、廖（禹）三位风水大师的姓氏，但都将“杨”字列在“曾”“廖”二字中间或上头【图 19—1、图 19—2】，举行祭祀礼仪时所用的符咒内提到的风水师，一般都是“杨公”，足见杨筠松在客家民系中的崇高地位。这类杨公符传到福佬人地区，用法也大抵相同杨公符，见图。

另外，“九牛破土大将军”也是一位与风水有密切关系的神灵，主要功能是镇杀（煞）。据叶明生调查，在闽西龙岩一带，闾山教道坛举行传度受箓仪式时，受度牒的师公可以得到十三份文牒，其中有一道“阳平衙给出地理公牒”，此公牒的最后一段文字中提到“九牛破土将军”，转引如下：“……复遵太上老君勅，给九牛破土将军从上界而来，押起五方土杀土公土母于（与？）土孙、天杀地杀年杀月杀日杀时

杀，一百二十四位神杀尽皆押起，百无禁忌。当吾前者死，当吾后者亡。...”〔*26〕

据山里纯一先生介绍，【图 16】与其他压圻符不同，不安放在墓中，而是连同咒语写在纸张上，贴在竹筒上，仪式结束后焚化。这种习俗源于闽西，清初闽西武平县人林宝树在所著启蒙读物《年初一》（又名《一年使用杂文字》）中写道：“许多斯文行地理，人人称说堪舆仙。南经碣石罗经袋，看人祠堂及地坟。杨公符木有灵应，消砂纳水照书篇。中宫驾定分山向，金井穴情用水插。峦头内胎外界水，明堂斗口峰峦尖。闲龟背过龙碑座，祭合摆角及冢圈。埋葬之时出破军，呼龙出煞喊大声。红色利市雄鸡血，完工谢土讲谢金。”所谓“杨公符木”，指建宅“动土”或做坟“破土”前竖立于纵轴线末端的符树（用竹筒或桃树做成）。用竹筒时，竹头在上，竹筒限定用三节。用桃树时，桃树头在下。符树的高度是杨公尺三尺三寸，即鲁班尺二尺九寸。杨公符用红纸墨书，帖于符树上。在竖符时，要祭杨公先师（杨筠松），举行杨公符开光仪式。拜祭时，东家须用三牲（鸡、兔、猪）、香纸、蜡烛（建厝用红烛，做坟用白烛）、果品虔诚恭祭杨公先师（如果是阳宅，拜祭的先师有鲁班先师、荷叶先师、杨公先师，杨公先师居中）。风水先生须主持仪式，手握七星剑，斩杀雄鸡祭告天地，以鸡血点符，杨公符才能真正具有法力。竖符木（树）应是杨公符区别于其他镇宅符或镇墓符的主要特征，如果不竖符木或不将符贴在符木上，严格意义上讲不属于正规的杨公符。〔*27〕

上述资料表明，闽西客家符箓是冲绳压圻符的重要来源之一。【图 15】的符箓包含的宗教信息是：奉三清敕令，雷神、火神、日神、月神迅速下凡制服鬼怪，并调遣杨公、九牛破土大将军保证开山破土、营造坟墓大吉大利。

四

近年来，在冲绳及周边岛屿发现大批文献资料，仅上江洲家文书就超过一千种，吉浜家文书也有九十余种，还有舆世永家文书数十种，其中大多数是从中国传入的。这些资料十分珍贵，相当多是流传于民间的文献，有些在中国已经失传，对于研究中国俗文化以及中国文化在冲绳的传播和影响具有重要的价值。

压圻符是从中国传去的，这是不争的历史事实，也是学术界认同的看法。然而，由于压圻符属于俗文化的范畴，官方文书一般不记载，或语焉不详，因此，压圻符是何时、通过什么渠道传入琉球的，传入琉球后产生哪些变异，这些问题尚未展开深入研究。另外，符箓具有浓厚神秘色彩，要对所有的符箓进行正确的解读，掌握其包含的宗教信息，以及符箓对民众产生什么样的影响等，确实有很多的工作要做，

〔*26〕 叶明生《福建龙岩市东肖镇闾山教广济坛科仪本汇编》，第 39 页，收入《中国传统科仪本汇编》（一），（台湾）新文丰出版公司，1996 年。

〔*27〕 详见陈进国《福建风水研究》，厦门大学博士论文，2001 年。

需要更多的学者参与研究。令人高兴的是，日本学术界同行开始系统地整理这些资料，并进行初步的研讨，笔者期待有更多的研究成果问世，同时也希望有机会研读这些珍贵资料，推进冲绳学的繁荣。